

## 2011年国際森林年プロジェクト

### 『森を創る・森を使う・森を食べる』連携の集い」宣言

国際森林年の今年、予想だにできなかったマグニチュード9.0の地震が起き、想像を絶する津波が襲ってきて、東日本は未曾有の災害に見舞われた。そしてライフラインは分断され、原発を含めたエネルギー問題が浮き彫りになり、今後は、ますます環境問題や食糧問題をより本格的に考えなくてはならない事態になるだろう。

それでも、かつて第二次世界大戦中に破壊された多くのヨーロッパ諸国や日本は、廃墟と化した国を復興した。国民が一丸となれば、再生は十分可能である。しかし、これからの再生は、かつての日本のように高度成長からバブル経済へと向かったような方向ではない。国土の67%も森林を持つ日本が、なぜか森をなおざりにし、化石資源や原子力を使った持続の可能性が低い文明に偏りがちだった。しかし、当然の事ながら、人間にとって最も大切なのは、きれいな空気・きれいな水、そして安全な食べ物であり、また、それを基礎に、人と自然・人と人が助け合う社会である。そのような持続可能な社会の創生のためにも、森が大切である。森こそが、きれいな空気・きれいな水、そして安全な食べ物を保証する。

私たちは、“森を創る・森を使い・森を食べる”というテーマの基、お互いに連携し合い、今日の災害を乗り越える事を含め、今年の国際森林年に、最大限の努力をしたいと思う。

そして、これを機に、「日本が生まれ変わる」事を提言したいと思う。これからの数年の日本の変革は、日本の将来を決めるだろう。ひいては、その結果がモデルとなり、世界に新たな社会の在り方を提示する事になるだろう。だからこそ、今年の国際森林年は、持てる力を出し切って努力する価値がある、と言える。

The light, which puts out our eyes is darkness to us. Only that day dawns to which we are awake.  
There is more day to dawn.

Henry David Thoreau, "Walden"

「・・・ぼくらの眼を眩ませる光は、ぼくらにとって闇だ。ぼくらが目覚めるときにこそ、夜明けは訪れる。まだまだたくさんの日が眠ったままで、夜明けを待っている・・・」

ヘンリー・D・ソロー『森の生活』より（葉月陽子訳）

2011年3月22日



稲本 正



C・W ニコル



成澤 由浩